

第3号

市自公連だより

筑紫野市自治公民館連絡協議会

■発行元 筑紫野市自公連事務局

■☎818-0057 福岡県筑紫野市二日市南 1-9-3

■発行責任者 会長 中野 二郎

生涯学習センター内 ☎ 092-918-3535



新しい風を吹かせましょう!【役員のことば】



筑紫野市自治公民館
連絡協議会 副会長
広報担当 藤本 進

筑紫野市自治公民館連絡協議会(市自公連)より「市自公連だより」の広報担当の任を受け創刊号から第3号まで発行することが出来ました。自公連だよりの編集に携わられた各地区の編集委員の皆様へ感謝申し上げます。また、各地区公民館の皆様から公民館活動の報告を寄稿していただき厚く御礼申し上げますと共に、多彩で質の高い活動と「地域づくり・郷土愛」を感じ、情報通信の役割を誇りと感じていきます。

さて、本年度は「地域コミュニティに新たな風を!」をテーマに、県内外を始め公民館大会や研修会に参加し、各地区の事例発表と講演から多くを学びました。原点は「集まり・学び・繋がる」こと。更に、高齢化と担い手不足・若年層の参加機会の不足など「持続可能な地域づくり」に向けての課題が少し見えてきました。その解決に改めて、自治会活動や公民館活動の役割・貢献があることに気づかされました。

近年、自然災害が頻繁に発生、世界的な感染症などの「命」に関わる時代を生きています。自治会及び公民館の役割である「誰もが・誰にでも、今を生きている喜びと何よりも自助・共助を大切にする。」を心がけて活動の意義を高めながら微力ながら進めていきたいと思えます。

令和元年度 市コミュニティ連絡会・館長主事等 人権研修会

『笑顔が広がる子どもの居場所づくり』



10月16日(水) 19時から、筑紫野市生涯学習センターにて「笑顔が広がる子どもの居場所づくり」をテーマに、山根佑介さん(ファザリング・ジャパン九州代表)を講師に人権学習を行いました。参加者は132人でした。山根さんは、「地域での子育てがなぜ必要か?」というテーマの元に具体的にお話しをして下さいました。

①ママひとりの子育ては苦しい↓情報の氾濫、パパの子育て不在、先輩の不在等により人に聞けない困りごとの増加 ②社会が変わった↓経済の変化、社会通念(常識)の変化、ひとり親世帯の増加等による自由に遊べない子ども達の増加(コンクリート化) ③その結果少子化にも大きな影響↓少子高齢化の加速や急激な人口減少。又お話しだけでなく、グループ別にクイズ形式で話し合い、「終わった時にどうあれば最高か?」「最近上手くいっている事は?」等、皆で考え、尋問と効果的な質問の違いや、シヤンパンタワーの法則等も学びました。

地域力の低下は子育てをしづらくし、少子化へとつながります。子どもたちにとって育った場所をふるさとにしていく。未来への地域力を高めるために、子育てしやすい筑紫野市を目指すべく地域活動に取り組んで行こうと決意をあらたにしました。

美しが丘北公民館 館長 鍋嶋 明



令和元年度 各地区 地区別視察研修会

二日市地区 入舟公民館

2月8日(土)、二日市コミュニティセンターにおいて、入舟公民館の発表がありました。発表の内容は、「入舟ヒストリー 入船団地誕生から高尾川・鷺田川改修まで」で、皆尺寺 泰夫館長が資料収集、参考文献を参考に作られた研修会資料を元に話されました。入舟区は西鉄二日市駅近くに位置して、本町地区にほとんど囲まれています。平成31年4月1日現在、122世帯231人の小さな行政区ということで公民館がありません。世帯が少ない状況で、年間収入も限られる中、主な行事を行う事は大変な事だと思えます。近年の豪雨災害で、高尾川・鷺田川改修と代替地問題は、入舟区にとって最善となりえたのか、自治会運営上の問題点・課題が今後に残されています。解決に向けて二日市地区との対話も視野に入れ、共生協働の中でアイデアが出てくるかもしれないですね。



二日市東地区 針摺東公民館

1月25日(土)に針摺東公民館において研修テーマを「公民館とコミュニティとの一体化」として各公民館館長・主事参加のもと行いました。公民館の現状をDVDの映像を見ながら年間行事の内容を説明しました。その後、フアザーリング・ジャパン九州の山根佑介様による「公民館とコミュニティの一体化による地域づくり」の題目で講演および質疑応答をしていただき役割分担、取組内容、対策等今後の公民館活動における助言等をいただきました。後継者の育成・行事のあり方、若い力を呼込む等参考にして公民館活動を行いましたと思います。



山口地区 全公民館

2月2日(日)山コミュニティセンターに於いて開催されました。研修会テーマは、「誰故草(エヒメアヤメ)」の保存の取り組みについてです。日本列島の成り立ちを証明する「生き証人」それが誰故草(エヒメアヤメ)です。大陸と陸続きだった新生代第四紀(千六百万年)の氷河期時代に分布域を拡げ日本列島に取り残された、大陸系遺存植物の一つとされています。当地区では、保存会を設立し地元の方々との協力を得て山口コミュニティ(歴史部会・子供部会)の保存活動の一環として視察会を行い、個体数保存に地区保存会と共に後世に伝えていきたいと思えました。「和名 誰故草(エヒメアヤメ)たれ故に開く うすむらさきのゆかりの色には 咲き出るよ・」



御笠地区 上阿志岐東公民館

2月9日(日)地区別視察研修会が上阿志岐東公民館にて開催されました。テーマは「上阿志岐東公民館の現状と今後の目標」でした。当地区は太陽光発電やハイブリッド・電気自動車等、環境に配慮して生活されている方が多いという特徴があります。まず、公民館の維持管理の現状・小さな行政区ならではの課題を洗い出し、自主避難所として行ってきた対策を、常に新しい情報を基に今後も区全員で進化した続ける事を確認しました。また理想として、阿志岐小学校校区内にコミセを設置して貰い、校区内の各公民館をネットワークで繋ぎ、自主避難所としての向上やサークル活動を立ち上げる為に、特性要因図を用いてその要因を話し合った事等、それぞれの目標に対する達成状況をPDCAサイクルで検証したことを発表させていただきました。



山家地区 全公民館

1月18日(土)、令和元年度山家地区自公連地区別視察研修会を、100名の参加者を得て、山家コミュニティセンターで開催しました。山家8区グループホーム「茶屋本陣」の横山里美さんを講師としてお招きし、「ひとにやさしい、よかまち山家」のテーマでご講演いただき、有意義な時間を過ごすことができました。特に、マズローの「自己実現の欲求5段階説」を紹介していただいたことが心に残っています。それは、第一段階(生理的欲求)、第二段階(安全・安定の欲求)、第三段階(社会的欲求)、第四段階(承認・尊敬の欲求)、第五段階(自己実現の欲求)ということでした。このことから、「ひと」が自己実現をめざし充実した人生を送るためには、対話を大切にした福祉のまちづくりに取り組んでいかなければならないことの重要性を理解することができました。現在、山家は筑紫野市内でもトップクラスの高齢化率です。その中で、話し相手もなく孤独感に陥っている高齢者の方もいると思います。そのような方を一人でも少なくするために日頃から、向こう三軒両隣、互いに声をかけあい、ご近所つきあいを深めていきたいと思えました。「ひとにやさしい、よかまち山家」を福社のまち山家をつくる第一歩を学べた研修会でした。



筑紫地区 下見一公民館

1月26日(日)下見一公民館で出席者43名のもと筑紫地区 地区別視察研修会を開催しました。

下見一公民館吉田館長より事例発表「公民館を拠点とした明るい町づくり」と題し伝統行事の獅子舞やほうげんぎょうなど多彩な行事の紹介がありました。敬老会では楽しそうな笑顔が村の自慢であり、体育祭ではこども小学生はスポーツクラブなどで参加が少なくなっているという課題が見えてきました。防犯活動では3ヵ月毎に子ども会と合同で行ったり、下校時間に合わせて青パトを巡回しています。

市広報誌2月1日号表紙に「健やかクラブ」の様子が掲載されました。

参加者からは伝統行事を多くされていて驚きましたとの感想がありました。課題として、およど・夏祭り・お獅子舞等続けるには若い世代の参加が必要。ほうげんぎょうでは竹の調達が難しくなっているとのこと。また、村の歴史を住職さんから勉強をしていくことなど有意義な研修となりました。最後に伝統行事である獅子舞の動画を視聴しました。



筑紫南地区 全公民館

自公連がコミュニティ運営協議会との一体化を果たした今年度から、従来の地区別視察研修を「公民館研修会」へと形を変え2月1日(土)に開催しました。会場も公民館持ち回りから筑紫南コミュニティセンターに変更しました。テーマは「地域の活性化・公民館活動の充実を目指して」コミュニティと公民館の一体化を通してです。研修内容は3部構成で、最初に7公民館の館長や主事が、それぞれの活動事例をスライドを使って紹介し、その後、元福岡県主任社会教育主事を務められた久原寛氏の講演。最後に、意見交換を行いました。講演は、戦後すぐの公民館建設の理念から始まり、現在のコミュニティと公民館の役割を福祉・教育・防災の3つの視点から具体的に話していただきました。印象的だったのは、「これまでの社会教育の取り組みで、たくさんの人たちが多くの学習成果を得ました。問題は、その学んだことをどう社会に生かしていくかということですよ」という言葉でした。

参加者からは、コミュニティと館長(区長)のコミュニケーションをより密にとつていかなければならない、地域の方から人材情報を得て幅広いメンバーをコミュニティにも公民館にも取り込んでいかなければとの意見がだされ、大変有意義な時間となりました。

参加者数は、公民館関係者・コミュニティ関係者・来賓を含め、38名でした。



九州地区公民館研究大会

第70回九州地区公民館研究大会が1月14日(火)佐賀市文化会館で開催されました。昨年8月に2日間開催予定が佐賀豪雨のため、全体会のみ短縮しての延期開催となりました。

筑紫野市自治公民館連絡協議会(市自公連)からは16名が参加しました。「社会教育や公民館の隘路(あいろ:物事を進めていく上での支障や困難のこと)を拓く〜がばい つながろー 人と人〜」をテーマに、九州各県から社会教育関係者や公民館関係者約千名の参加がありました。

シンポジウムでは4名のシンポジストが講演されました。

それぞれ「生活の基盤としての社会教育・公民館」「開かれ、つながる社会教育へ」「多(異)分野協働〜思いと力を束ねて〜」といったテーマで講演されました。いずれも現代の社会の価値観の多様化・多元化が顕著化してきている。その為地域社会・公民館活動もそれに対応して変化していく必要がある。といった内容だったと理解しました。4人目の佐賀市立南川副公民館主事の田中みさ子氏は、公民館勤務14年の経験から「集う」「学び」「結ぶ」という公民館の役割を力説されました。現場経験の声だけに説得力のあるお話でした。

令和2年度の開催となる熊本県へバトンタッチし、閉会しました。

山家九区公民館主事 古賀 英樹



コミュニティ運営協議会の活動(シリーズ3)

山口コミュニティ運営協議会
会長 荒瀬 義信

山口コミュニティ運営協議会と山口校区自治公民館連絡協議会は、令和元年度に一体化されました。山口校区の行政区は6区ありますが、区長は自治公民館の館長を兼務しています。また、運営協議会の役員も兼務しております。



当運営協議会では、部会を組織し、防災・防犯対策、子どもの健全育成、高齢者支援を進めているところです。

自公連との一体化後初めての「やまぐちコミュニティまつり」を開催しましたが、たくさんの区民の参加を得て、にぎやかなまつりとなり、区域内の住民の交流の場になったと思っております。

その他、各自治公民館で実施した認知症サポーター養成講座の集大成として、校区内で認知症「笑顔で声かけ」訓練を実施しました。これからも6行政区一体で協力して、地域の絆づくりを進めます。



【公民館】

公民館紹介 天拝坂公民館



地域の皆さまのご協力のおかげで令和元年度の主な自治会の行事が無事に終わりました。公民館ではサークル活動が活発に行われ、大人から子どもまで学習や趣味を通しての活動が毎日何処かの部屋で行われています。地域の交流の場としても活用され、会議や親睦会としても公民館がよく利用されています。

公民館の概要については、二日市コミュニティのホームページに載せています。ご覧ください。

天拝坂公民館 館長 栗原 秀峰



【文化祭】



【蛸まつり】



【天拝山健康登山】



【敬老祝賀会】



【夏祭り】